

令和6年産水稻収穫量調査からみた千葉県の水稲



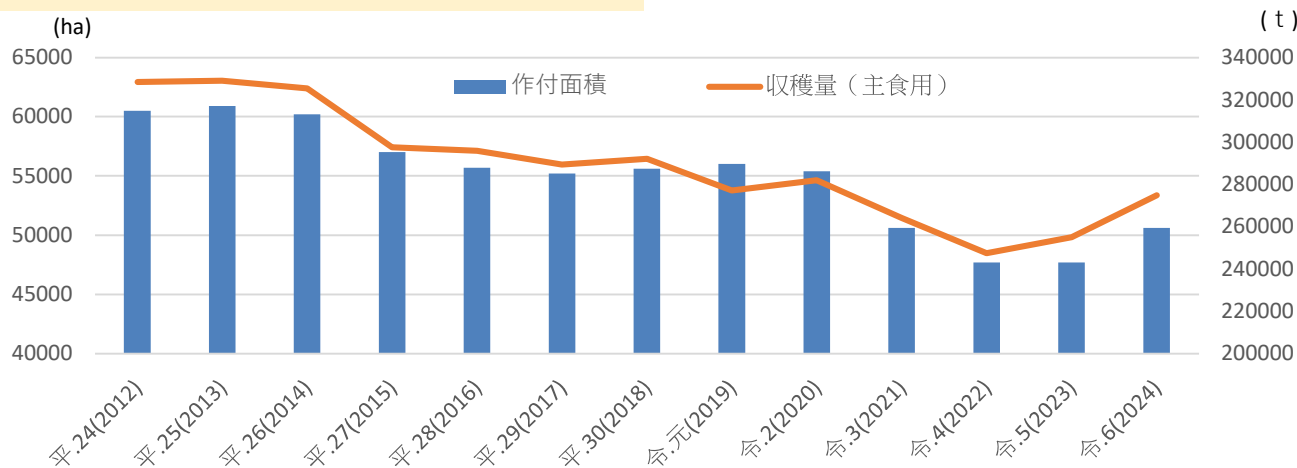
千葉県の令和6年産水稻の作付面積（子実用）は50,600ha（前年産に比べ2,900ha増加）となった。10a当たり収量は569kgとなった。これは、一部地域で5月下旬から6月上旬にかけての低温や6月下旬から7月中旬にかけての断続的な日照不足等の影響があったものの、多くの地域で総じて天候に恵まれ、作柄は平年並み以上となったため。主食用作付面積に10a当たり収量を乗じた収穫量（主食用）は274,800t（前年産に比べ19,700t増加）となった。農家等が使用しているふるい目幅ベースの作況指数は105となった。

令和6年産水稻の作付面積及び収穫量

全 国 ・ 都道府県	作付面積（子実用）			10a当たり 収 量	農家等が使用している ふるい目幅で選別				収穫量（子実用）			主食用 作付面積	収穫量 （主食用）			
	実数	前年産との比較			最も多い 使用割合 の目幅	10a当たり 収 量	10a当たり 平年収量	作 況 指 数	実 数	前年産との比較						
		①	対差							対比	②			③	④	⑤
	ha	ha	%		kg	mm	kg	kg	t	t	%			ha	t	
全 国	1,359,000	15,000	101	540	...	519	513	101	7,345,000	180,000	103	1,259,000	6,792,000			
千 葉	50,600	2,900	106	569	1.80	559	533	105	287,900	22,200	108	48,300	274,800			

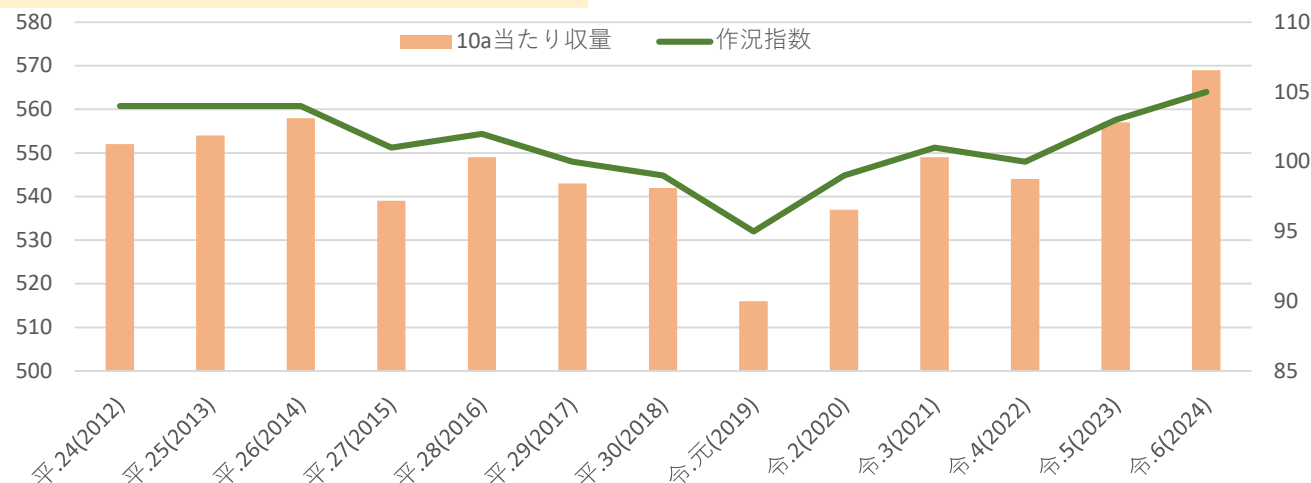
- 注：1 作付面積（子実用）とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から青刈り面積（飼料用米・WCS用稲等を含む。）を除いた面積である。
 2 10a当たり収量（②）、収穫量（子実用）（⑦）及び収穫量（主食用）（⑨）は、1.70mmのふるい目幅で選別された玄米の重量である。
 3 10a当たり収量（②）、10a当たり平年収量（⑤）及び作況指数（⑥）については、都道府県ごとに、過去5か年に農家等が使用したふるい目幅の分布において、最も多い使用割合の目幅で選別された玄米を基に算出した数値である。
 4 収穫量については都道府県ごとの積上げ値であるため、表頭の計算は一致しない場合がある。
 5 主食用作付面積とは、青刈り面積を含めた水稻全体の作付面積から、備蓄米、加工用米、新規需要米等の作付面積を除いた面積である。

千葉県の作付面積及び収穫量（主食用）の推移



作物統計収穫量累年統計 * 収穫量は主食用 令和6年産水稻の作付面積及び収穫量

千葉県の10a当たり収量及び作況指数の推移



作物統計収穫量累年統計 * 収穫量は主食用 令和6年産水稻の作付面積及び収穫量

農林業センサスからみた千葉県の水稲



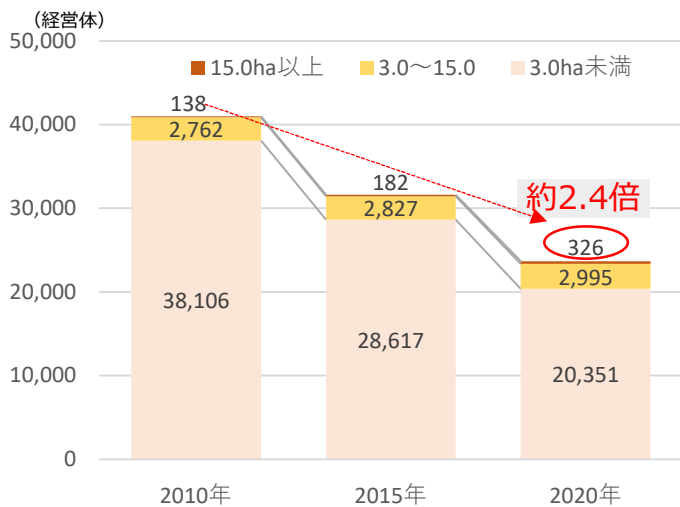
水稲の規模別作付面積及び規模別経営体数の推移では、3ha未満の階層で減少し続けているが、3ha以上の階層で増加し、特に15ha以上の階層では10年間で増加しており、規模拡大が進んでいる。

水稲作付面積規模別作付面積の推移

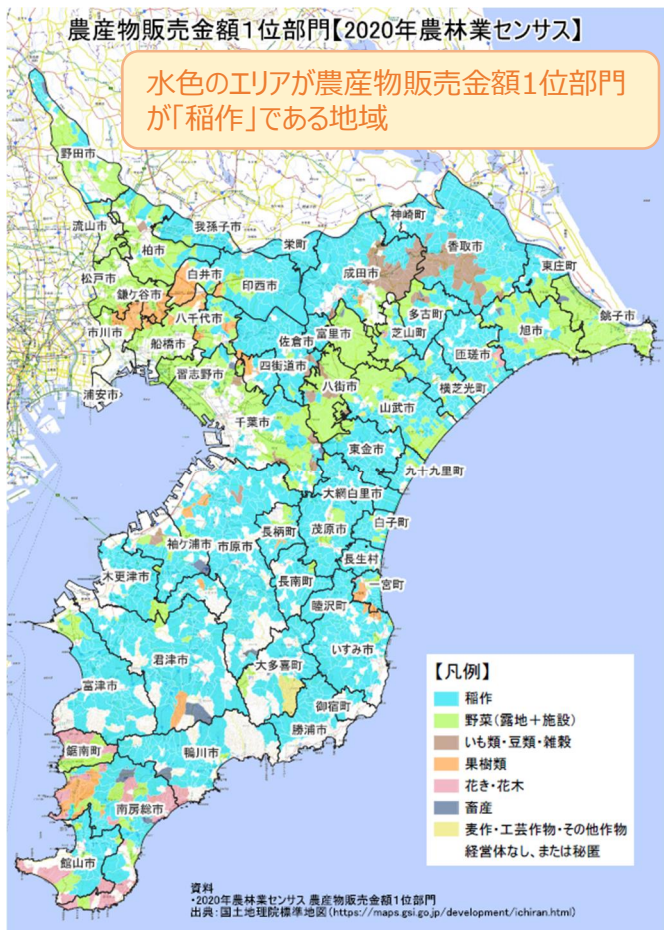


資料：農林業センサス 販売目的の水稲作付面積規模別統計

水稲作付面積規模別経営体数の推移

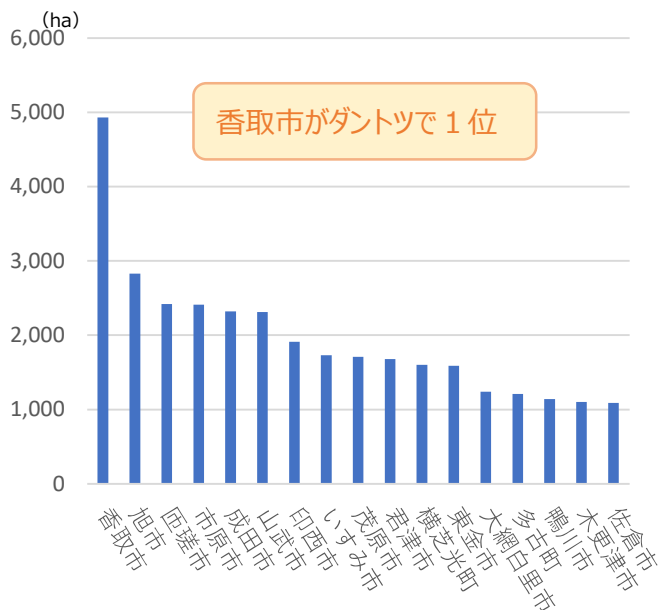


資料：農林業センサス 販売目的の水稲作付面積規模別統計



作物統計調査からみた千葉県の水稲

令和5年産市町村別水稲作付面積



資料：作物統計調査

- この市町村別統計は、「作物統計調査」を実施する上で把握した地域における標本調査及び現地見積りの結果、関係機関からの情報等を踏まえ、都道府県計値の内訳として市町村別に配分することにより作成した加工統計であり、市町村別の値を目的として設計された調査に基づいて直接得られたものではない。なお、「作物統計調査」は、都道府県計値を求めるために目標精度を設定し、調査の設計がされている。
- 面積は、耕地の存在する市町村に計上しており（属地統計）、耕作者の市町村間の出作・入作を考慮していない。

米生産費からみた千葉県の水稻



令和5年産の米の10a当たり生産費（資本利子・地代全額算入）は、13万2,863円、60kg当たり生産費（資本利子・地代全額算入）は1万5,948円で、前年産に比べ3.0%、4.4%それぞれ増加した。

米生産費(個人経営体)

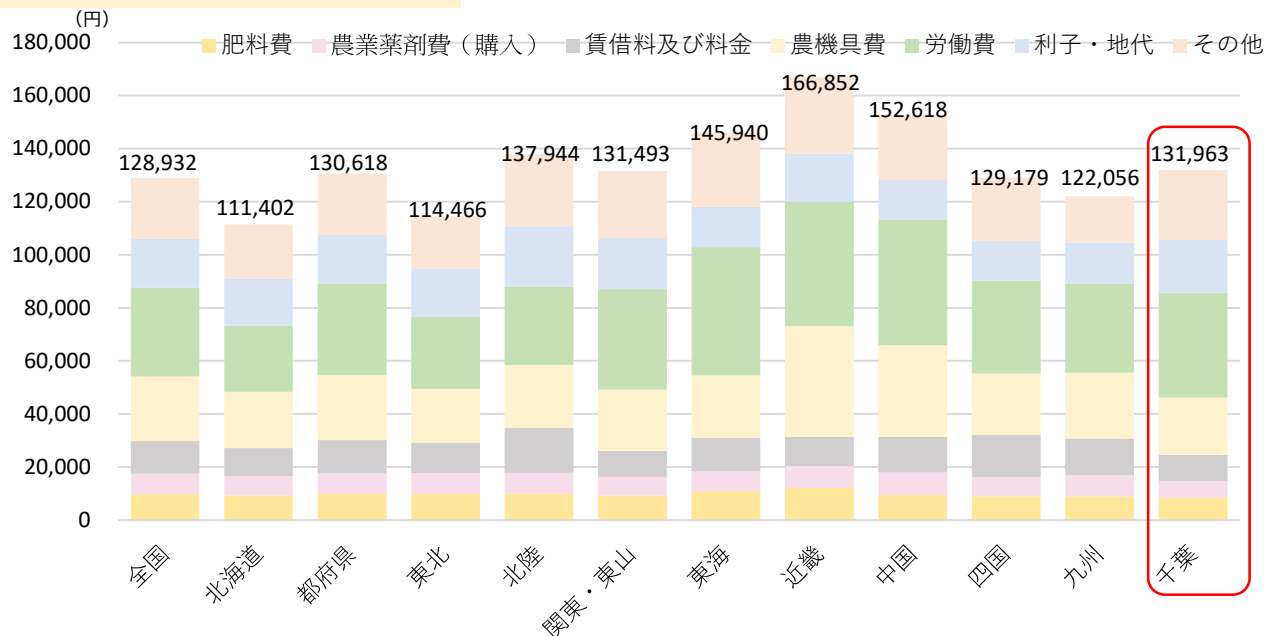
		全 国			関東・東山	千葉
		令和4年産	令和5年産	対前年産増減率	令和4年産	
10a当たり				%		
物 財 費	円	79,324	82,513	4.0	76,203	73,872
肥 料 費		9,810	12,564	28.1	9,322	8,430
農 業 薬 剤 費 (購 入)		7,664	8,051	5.0	6,911	6,235
賃 借 料 及 び 料 金		12,359	11,606	△ 6.1	9,797	9,937
農 機 具 費		24,264	24,799	2.2	23,207	21,559
労 働 費		33,478	34,474	3.0	37,815	39,618
費 用 合 計		112,802	116,987	3.7	114,018	113,490
生産費（副産物価額差引）		110,574	114,472	3.5	112,258	112,121
支払利子・地代算入生産費		115,510	119,483	3.4	117,674	118,317
資本利子・地代全額算入生産費		128,932	132,863	3.0	131,493	131,963
60kg 当たり全額算入生産費	円	15,273	15,948	4.4	15,581	15,891
10 a 当 たり 収 量	kg	506	499	△ 1.4	506	498
10 a 当 たり 労 働 時 間	時間	21.63	21.86	1.1	23.33	24.15
1 経 営 体 当 たり 作 付 面 積	a	181.3	180.5	△ 0.4	164.2	204.2

注：令和5年産は令和6年10月30日速報公表（全国、北海道、都府県のみ）確報は令和7年3月下旬公表。

調査対象は食用に供する目的で栽培している水稻を対象品目とし、2020年農林業センサスに基づく農業経営体のうち、玄米を600kg以上販売する個別経営体（世帯による事業を行う経営体（法人格を有する経営体を含む））肥料価格高騰対策の支援金は計上していない。

令和4年産の地域別の米の10a当たり生産費（資本利子・地代全額算入）は、近畿が16万6,852円で最も高く、関東・東山は13万1,493円、千葉県は13万1,963円となっている。

地域別生産費（令和4年産）



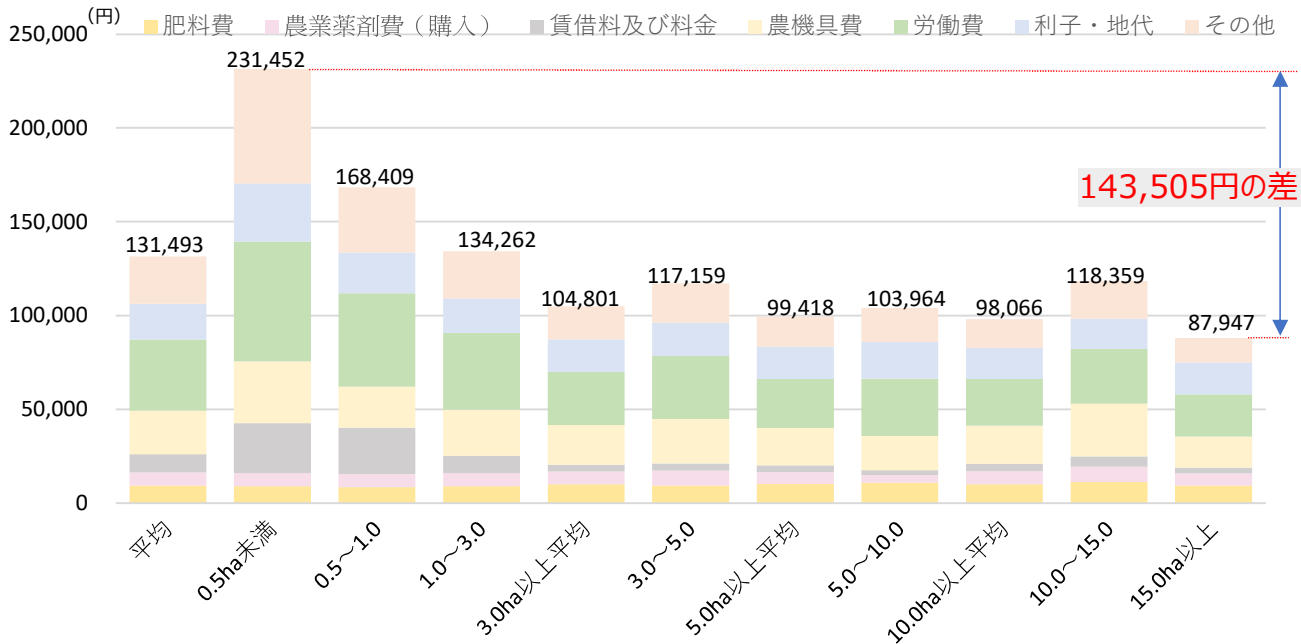
米生産費からみた水稻



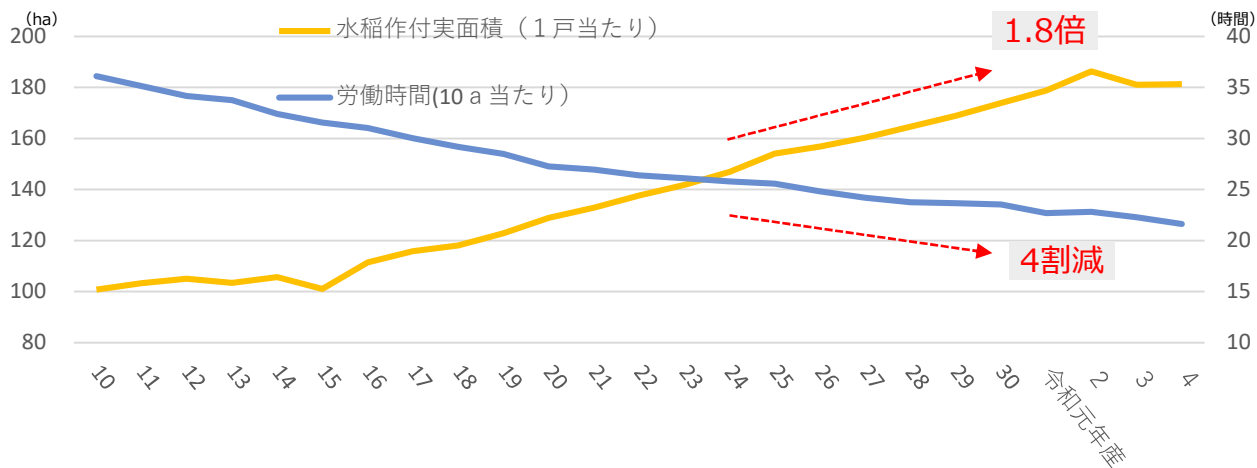
令和4年産の関東・東山の作付面積規模別の生産費(10a当たり)は、0.5ha未満が231,452円、15.0ha以上が87,947円となった。

平成10年から令和4年までの25年間で、1戸当たりの水稻作付面積は増加するとともに、10a当たりの労働時間は減少し、規模拡大と労働力の効率化が進んだ。

作付規模別10a当たり生産費 (令和4年産 関東・東山)



水稻作付実面積と労働時間の推移 (平成10年~令和4年)



物財費の内訳 (令和4年産調査) 千葉県73,872円/10a

